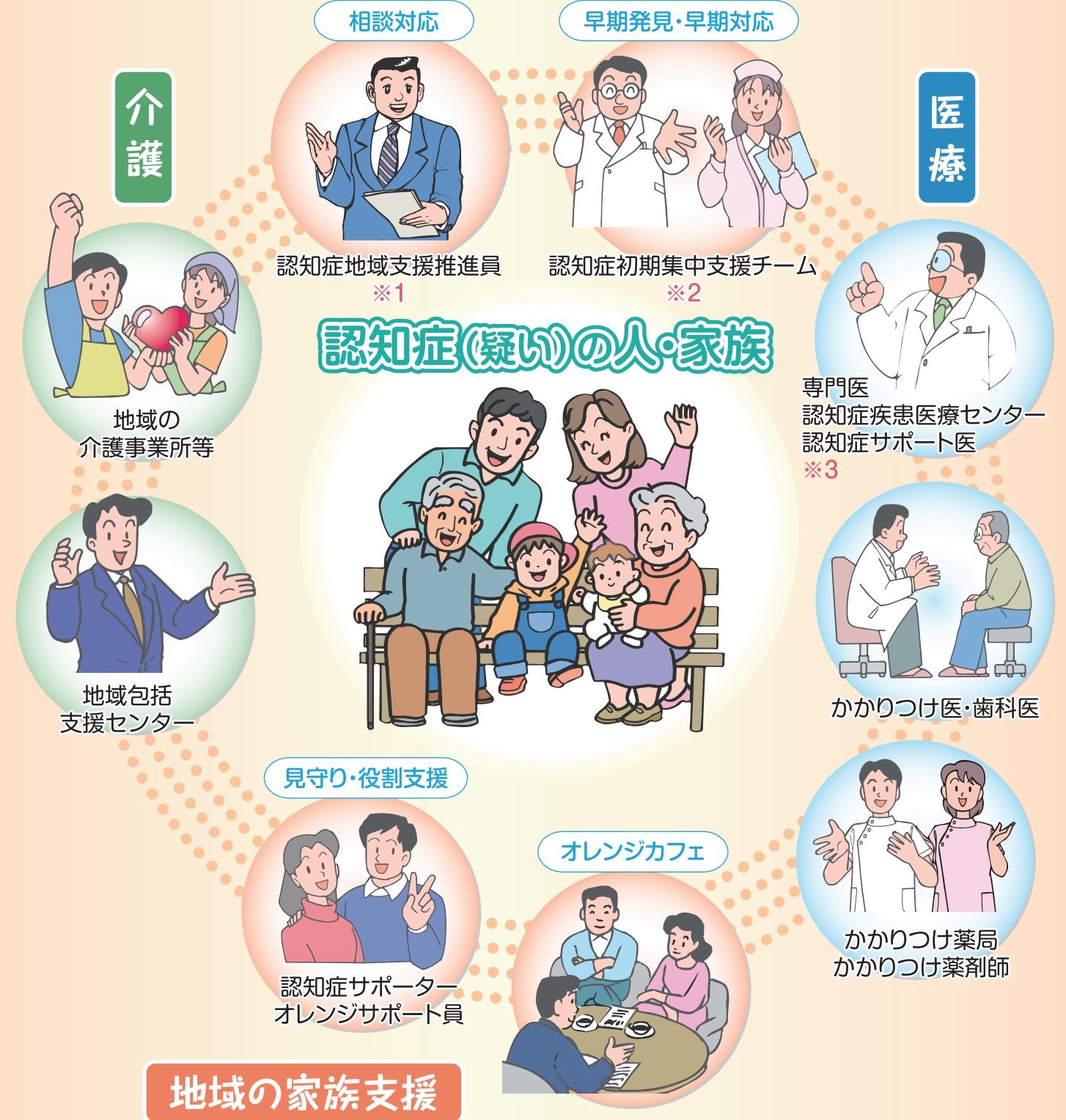


認知症

認知症関連事業のご案内をご覧ください

その人らしさをみんなでサポート

鎌ケ谷市では認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らし続けていけるよう取り組んでいます。



※1 認知症地域支援推進員
市町村における認知症に関する医療・介護等の連携の推進を担う者。

※2 認知症初期集中支援チーム
認知症サポート医、医療・福祉・介護の専門職で構成された、認知症の人やその家族を支えるチームです。

※3 認知症サポート医
養成研修を修了し、かかりつけ医への助言等の支援を行う医師です。専門医療機関や市町村との連携の推進役となる医師です。

市役所相談窓口

◆ 鎌ケ谷市役所 高齢者支援課 地域包括支援係

住所：鎌ケ谷市新鎌ケ谷2-6-1
電話：(直) 047-445-1384
FAX：047-443-2233

認知症相談
開催日：第2火曜日
午後1時～3時(要予約)
場所：総合福祉保健センター
(応相談で訪問可)

地域包括支援センター一覧

お住まいの地域により、担当の地域包括支援センターが決まっています。
開所日：月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 時間：午前9時～午後5時

初富地域包括支援センター (初富保健病院内) 鎌ケ谷市初富114 ☎047-446-7873 ☎047-444-0125	中央東地区	東鎌ケ谷、東初富、南初富1～3丁目、初富(700～927番地)
	北部地区	栗野(1～425番地・539番地～)、軽井沢、佐津間(2番地～1299番地)、中佐津間、西佐津間、南佐津間
西部地域包括支援センター (シルバークア鎌ケ谷内) 鎌ケ谷市初富125-1 ☎047-441-2007 ☎047-498-5522	中央地区	道野辺中央、道野辺本町、右京塚、南初富4～6丁目、中央、富岡、初富本町、初富(928～931番地)、新鎌ケ谷
	西部地区	くぬぎ山、栗野(426～538番地)、佐津間(1300～1400番地)、串崎新田、北初富、初富(1～399番地・1300番地～)
南部地域包括支援センター (グリーンハイツ内) 鎌ケ谷市西道野辺10-28-101 ☎047-441-7370 ☎047-441-7371	東部地区	丸山、鎌ケ谷、南鎌ケ谷、東道野辺2～7丁目
	南部地区	道野辺、東道野辺1丁目、西道野辺、馬込沢、中沢、東中沢、北中沢、中沢新町

オレンジカフェのご紹介

オレンジカフェとは認知症の人やその家族、地域住民の皆さん、専門職などの誰もが気軽に集えるカフェです。だんらんや情報交換、レクリエーションなどをしながら一緒に過ごしましょう。開催時間内の出入りは自由です。

① オレンジカフェ はつとみ	☎047-442-0811 (内線112) 鎌ケ谷市初富114 (初富保健病院内)
② オレンジカフェ リーベン鎌ケ谷	☎047-443-8212 鎌ケ谷市丸山3-17-18 (地域密着型サービス事業所リーベン鎌ケ谷内)
③ オレンジカフェ さつまの里	☎047-401-1500 鎌ケ谷市佐津間989-1 (特別養護老人ホームさつまの里内)
④ オレンジカフェ @コノハベース (はもれびクリニック併設 地域交流スペース)	☎047-401-1500 鎌ケ谷市初富本町1-3-8エクセルハイツKEYAKI1 F
⑤ オレンジサークルカフェ	☎080-9396-0518 鎌ケ谷市鎌ケ谷7-12-40 (コミュニティハウスここからいっぽ内)

鎌ケ谷市 認知症ケアパス

認知症ケアパスは、認知症の症状に応じた対応・支援体制などの目安を示したものです。認知症を引き起こす疾患や身体状況などにより、必ずしもこの通りになるわけではありませんが、ご本人の様子により大まかな状況を把握していただき、今後の参考にしてください。本誌は認知症の状態にあわせて利用できるサービス(認知症関連事業)を掲載しています。

認知症で困ったら…
どんなサービスがあるのかな?

認知症関連事業のご案内をご覧ください

認知症と老化によるもの忘れとの違い

認知症	老化によるもの忘れ
◎もの忘れの自覚がない	◎もの忘れの自覚はある
◎ご飯を食べたことなど、体験したこと自体を忘れる	◎食事のメニューなど、体験の一部を忘れる
◎判断力が低下する	◎判断力の低下は見られない
◎場所や時間、人との関係が分からなくなる	◎場所や時間、人との関係などは分かる

令和6年8月改訂

認知症に早く気づくことが大切です

- 治る病気や一時的な症状の場合があります
- 進行を遅らせることが可能な場合があります
- 今後の生活を準備することができます

認知症の始まりによく見られる症状

もの忘れがひどい	判断力・理解力が衰える
<input type="checkbox"/> 同じことを何度も言う、問う、する	<input type="checkbox"/> 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
<input type="checkbox"/> しまい忘れ・置き忘れが増え、いつも探している	<input type="checkbox"/> 新しいことが覚えられない
<input type="checkbox"/> 財布・通帳・衣類などが盗まれたと人を疑う	<input type="checkbox"/> 話のつじつまが合わない
時間・場所が分からない	人柄が変わる
<input type="checkbox"/> 約束の日時や場所を間違えるようになった	<input type="checkbox"/> 些細なことで怒りっぽくなった
<input type="checkbox"/> 慣れた道でも迷うことがある	<input type="checkbox"/> 周囲への気遣いがなくなり、頑固になった
不安感が強い	意欲がなくなる
<input type="checkbox"/> 一人になると怖がったり寂しがったりする	<input type="checkbox"/> 身だしなみを構わなくなった
<input type="checkbox"/> 「頭が変になった」と本人が訴える	<input type="checkbox"/> 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった

認知症かもしれない人と接する時に大切なこと

基本的考え方

人から不意に声をかけられると、誰でもびっくりします。

背後から声をかけるなど相手を驚かせたり、急かしたりして混乱させることがないように気をつけましょう。

本人の意思、自尊心を尊重する接し方を心がけることも重要です。

具体的な対応の7つのポイント

- まずは見守る
- 余裕をもって対応する
- 声をかけるときは1人で
- 後ろから声をかけない
- 相手に目線を合わせてやさしい口調で
- 穏やかにはっきりとした話し方で
- 会話は本人のペースに合わせて

※認知症サポーター養成講座標準教材 認知症を学び地域で支えよう 認知症の人への対応 ガイドラインより